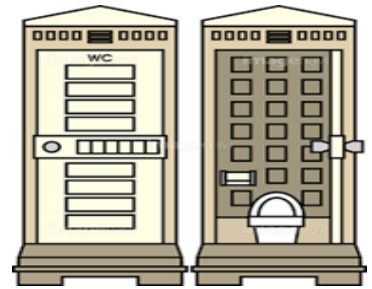


災害が起これば、トイレも被災する 災害時のトイレどうする？

P T A副会長の望月純一さんは、南自主防災会の活動にも尽力されています。今回は「広報みなみ」に保護者の皆様にもお考えいただきたい家庭防災に関する記事を寄せてくださいました。



学校のトイレが洋式トイレに改修工事に入りました。自主防災でも昨年より、災害時のトイレについて勉強を始めました。

災害が起きた瞬間は命を守ることを優先しなければいけません、その後の生活ではトイレ問題が重要です。水や食糧の問題のほうが深刻だと思われかもしれませんが実際に大きな災害に遭った人を対象として災害時に困ったことのアンケートを集計すると、ランキング 1 位が災害時のトイレ問題でした。断水などによるトイレ問題（30%）、飲み水や食料品の不足（20%）、交通機関の乱れ（18%）、家族の安否確認、通信・電話の不通、停電による被害がそれぞれ（5～6%）、健康や医療の異常（3%）、その他（8%）という結果でした。なぜ、それほどまでに災害時のトイレ問題が重要なのでしょうか？

食事は量や回数を減らしても我慢することができます。しかし、排泄は、大便・小便どちらにしても限界があります。どれほど我慢しても最終的には避けることができません。東日本大震災では、発災から 3 時間以内に 3 割の人が、6 時間以内に 7 割の人がトイレに行きたくなったという報告もあります。（調査：日本トイレ研究所）しかも、排泄物は悪臭を放ちますし、不衛生で伝染病の原因にもなります。

日常生活であれば、トイレで用をすませてレバーやボタンを操作すれば、排泄物は流れて見えなくなります。しかし、災害時には配管に問題が生じていたり、マンションなどでは停電によって水が流れなくなったりすることがあります。基本的に災害時にはトイレが使えないという前提でいたほうがいいでしょう。

そこで、工事現場などで使用される臨時のトイレや、市販の災害用段ボール便座が紹介されています。防災訓練では、バケツにポリ袋をセットした簡易トイレを作る訓練を行います。



ところで、みなさんは 1 日に何回トイレに行きますか？ 1 日にどのくらいの量の排泄をしますでしょうか？ 用をすましたら、その都度後始末をしなくてはなりません。しかし、毎度、凝固処理や紙で脱水処理していたらどうなるでしょうか。どうしたら、生ごみとして捨てることができるでしょうか。これについては、ペットの糞尿の処理も参考になります。通常、人は 1 日に 5 回から 7 回トイレに行くといわれます。この回数に家族の人数と使う日数をかけた分だけ災害時に役立つ携帯トイレなどを用意する必要があります。最低でも 1 週間分以上は備えたほうがよいようです。

南自主防災会では、毎年行う防災訓練のほか夜間の避難訓練も行っています。

災害はいつ起こるかわかりません。いざという時の備えをご家庭でも行ってください。

本年度は総合防災訓練が延期になりました。代わりに各町内会の防災担当の方にご出席いただき、防災教室を行いました。



